

令和5年度足立区文化芸術劇場運営評価委員会 会議録

会 議 名	足立区文化芸術劇場運営評価委員会	
事 務 局	地域のちから推進部 地域文化課長 中島 宣幸 地域文化課広域施設係 係長 小栗 洋平 主任 鈴江 和俊 主任 村田 貴紀 中村 友理	
開催年月日	令和7年1月20日（月）	
開催時間	午後4時00分 ～ 午後6時30分	
開催場所	シアター1010 アトリエ	
出席者 （敬称略）	熊倉 純子 （東京藝術大学大学院 教授）	垣内 恵美子 （政策研究大学院大学 名誉教授）
	立石 訓人 （公益財団法人 調布市文化・コミュニティ振興財団）	高柳 千代 （シアター1010友の会 会員）
	中島 明子 （元足立区区民評価委員会委員）	
欠 席 者	なし	
次 第	1 資料確認・事前説明等 2 開 会 3 「1. 管理状況」の「チェック項目」の確認および審議 4 「1. 管理状況」の「加点項目」の確認 5 「2. 事業効果」の「チェック項目」および「加点項目」の確認 6 指定管理者ヒアリング・質疑応答 7 仮採点 8 最終審議・決定 9 閉会	
資 料	事前送付分 ・足立区文化芸術劇場条例 ・足立区文化芸術劇場条例施行規則 ・募集要項 ・シアター1010リーフレット ・足立区文化芸術劇場(シアター1010)概要 ・基本協定書	

	・ 5 カ年計画 ・ 令和 5 年度協定書 ・ 管理運営業務仕様書 ・ 令和 5 年度事業計画書 ・ 令和 5 年度事業報告書 ・ チェック項目説明書・加点提案書 ・ アンケート集計 ・ 業務評価チェックシート ・ 所見記入シート 当日配付分 ・ 次第 ・ 「評価の仕組み」 ・ 令和 5 年度運営分評価 加点基準 ・ 採点記入表（様式） ・ 指定管理者作成資料一式
そ の 他	

【1 資料確認・事前説明等】

（割愛）

【2 開会】

（事務局）

それでは、ただいまより「足立区文化芸術劇場指定管理者運営評価委員会」を開会いたします。

この委員会は、足立区文化芸術劇場条例施行規則第18条第3項により、過半数の出席により成立いたします。

現在、過半数に達しておりますので、委員会は成立しております。

それではこれから議事に入っていきますが、シアター1010の指定管理者の運営について、「1. 管理状況」、「2. 事業効果」という2つの観点でご審議いただきたいと存じます。

「1. 管理状況」については、基礎点となる「チェック項目」は、全体として区のモニタリングの結果を追認していただくか否かでご判断いただき、「加点項目」は、個別にご審議いただきます。

「2. 事業効果」については、「チェック項目」・「加点項目」とも皆様にご審議いただきます。

特に、「1. 管理状況」の「加点項目」ならびに「2. 事業効果」の「チェック項目」および「加点項目」については、シアター1010の佐々木館長にも入っていただき、ヒアリング、質疑応答の時間を設けておりますので、確認をしていただければと存じます。

なお、「1. 管理状況」の「チェック項目」について、佐々木館長にご確認いただいても、もちろん結構です。

その後、委員の皆様には各々採点をしていただき、皆様の休憩時間と兼ねて、事務局が集計いたします。

集計結果を皆様にフィードバックし、それを基に、委員会としての最終的なご審議、採点を行っていただきたいと存じます。

以上の流れで進めてまいりたいと存じます。

次に、採点についてご説明いたします。お手元の資料「評価の仕組み」をご覧ください。

まず、「1. 管理状況」について、「チェック項目」は未達成項目1つにつき1点減点されていく、満点で3点の項目です。

「加点項目」は「①提案内容」と「②その成果」に分かれ、それぞれが0.5点刻みで満点が1点ずつとなり、合計で2点の項目です。

これらを合わせて合計5点満点となっております。

特に、「チェック項目」は、私どもがあらかじめ採点した区採点を委員会で追認していただいた場合は、区採点そのまま委員会の採点となります。

「加点項目」は、区採点は参考としていただき、委員会でご審議いただきます。

なお、「チェック項目」を委員の皆様で修正していただいても結構です。

次に「2. 事業効果」については、こちらも区採点は参考としていただき、「チェック項目」、「加点項目」ともに委員会でご審議いただきます。

なお、「1. 管理状況」「2. 事業効果」とも、一部の項目について係数2、すなわち2倍の得点とする箇所がございます。

これら全ての項目の採点が終了した後、合計点を算出し、評価基準（ランキング）に当てはめますが、採点とは別に、ランクダウンすべき重大な事項がありましたら、それを加味し、最終評価を出していただきます。

なお、ランクB以上、95点以上であれば、「合格」となります。ちなみに昨年度はランクAー、131点でした。

それでは、熊倉委員長、議事の進行をよろしくお願いいたします。

【3 「1. 管理状況」の「チェック項目」の確認および審議】

（熊倉委員長）

それでは、議事に入ります。

なお、ご審議にあたっては、事務局から送られた資料にお目通しいただいているという

前提で進めて参りますので、よろしく願い
いたします。

ではまず、1. 管理状況の「チェック項
目」について、事務局から補足してくださ
い。

(事務局)

まず、1. 管理状況の「チェック項目」全
般について申し上げます。

指定管理者から定期的または臨時で提出さ
れた各報告書類、シアター1010を訪問し
た際の聞き取りや目視確認、日常業務でのや
りとり等の結果、おおむね問題点はありません
でした。

ただし、一点、どこに入れるべきか迷うと
ころではありましたが、チェックシート 1
-B-4 「危機管理（防災・防犯・事故対
応）が適切に行われている」の（1）につい
て、減点しました。

これは防災・防犯ではありませんが、指定
管理者による招待事業の抽選作業において、
ダブルブッキングが発生した案件です。

重複した当選者には謝罪の連絡、代わりの
公演に招待する等、その後の対応は問題なか
ったものと判断しておりますが、一方、区で
は、何らかの事故が発生した場合、それがわ
かった時点から30分以内に区長までエスカ
レーションする、という「30分ルール」と
いうもので業務をしており、それを指定管理
業務にも準用しております。

今回のダブルブッキングの区への報告は、
「30分ルール」を逸脱していた、後日にな
ってからわかったため、減点としました。

なお、区からはこういったダブルブッキ
ング事例へのチェック体制を整えるとともに、
「30分ルール」の順守を再確認するよう指
導しました。

なお、今までは1人でチェックを行って
いたものを、二重で行う体制にしたとのこと
でした。

以上です。

(熊倉委員長)

ありがとうございました。

それでは、「1. 管理状況」の「チェック
項目」について、ご意見等がありますか。

なければ「追認」とすることができます
が、いかがいたしますか。

(異議なしの声)

それでは基礎点は区の評価を追認するもの
とします。

【4 「1. 管理状況」の「加点項目」の確 認】

(熊倉委員長)

それでは、次に「1. 管理状況」の「加
点項目」についての審議に移ります。
指定管理者から受けた加点提案について、事
務局から、補足説明等がありますか。

(事務局)

まず、前提として、指定管理者からは「加
点提案書」のとおり、1つの例外を除き、全
ての項目において、「1. 管理状況」、
「2. 事業効果」いずれも加点提案を受けて
おります。

1つの例外というのは 1-B-2「施
設・設備の経年劣化に対応している」です。

ただ、この項目は、施設や設備の設置年数
により、自動的に加点がされる仕組みとなっ
ておりますので、加点提案は元々できないも
のでございます。

よって、1-B-2はこれで確定としたい
と存じます。

また、指定管理者からの加点提案に対応す
るのは、チェックシートの各項目の最下段と
なっており、右の方に、区評価が記載されて
おりますので、委員の皆様は併せてご覧いた
だければと存じます。

例えば、加点提案書1ページ1-A-1に
ついて、「“コロナ明け”における感染対策
と、より次代を見据えた運営実施」という提
案を受けております。

これに対する区の評価としては、チェック
シート 1-A-1の最下段で、①提案した
内容を実施したかという箇所は○の1点、
②具体的な成果に結びついているかという箇
所は△の0.5点で、合わせて1.5点とな
ります。

上段の「チェック項目」は減点なしの3点
なので、1-A-1全体では合計4点となっ
ています。

次に、個別の項目について、区としては加点を認めなかった項目を中心に補足説明いたします。

まず、チェックシート 1-A-2「職員の勤務状況・体制が適切である」において「安定した勤務体制作り」との加点提案ですが、現在では、時短やテレワーク等の組み合わせは一般的になっていること等から、通常業務の範囲内と判断し、区では加点しませんでした。

続いて、同じく、チェックシート 1-A-3「人材育成の取り組み」において、従業員の研修が加点提案されていますが、特に顕著な取り組みや成果であるとまでは言えないため、通常業務の範囲内と判断し、区では加点しませんでした。

なお、加点②の具体的な成果に結びついていないかにおいて、「他の施設のやり方から運営方法を日常業務に反映した」と加点提案書には記載されていますが、2-C-1で評価すべきものと判断し、ここでは評価の対象とはしませんでした。

続いてチェックシート 1-C-1「個人情報保護への取り組み」において、「個人情報徹底管理」と加点提案されていますが、個人情報保護には研修等の不断的努力が必要なのは、官民間問わず変わらないので、通常業務の範囲内と判断し、区では加点しませんでした。

続いて、同じくチェックシート 1-C-2「個人情報事故への対応」において、「より丁寧な個人情報管理対応」と加点提案されていますが、内容自体は昨年度と概ね同じであるほか、ウィルスソフトの更新等は、こちらもやはり、継続していくものであることから、通常業務の範囲内と判断し、区では加点しませんでした。

なお、チケットのリセールについては、2-A-1で評価すべきものと判断し、ここでは評価しませんでした。

続いて、チェックシート 1-C-3「各種法令等の遵守」において、「法への対応と舞台安全研修」と加点提案されていますが、法令改正への対応は必須であるほか、高所作業のための安全研修は継続しているものの、特に顕著な取り組みとまでは言えないため、

通常業務の範囲内と判断し、区では加点しませんでした。

最後に、チェックシート 1-D-1「適正な財務状況及び経理処理を行っている」において、①の取り組み自体は通常業務の範囲内として、加点を認めませんでしたが、②の成果については、過去3年平均ならびに過去5年平均と比較して、黒字を継続していることを、区としては一定程度評価し、加点しました。

以上です。

(熊倉委員長)

皆様からご質問等がありますか？

(なしとの声)

なければ、「2. 事業効果」の審議に移ります。

事務局から、補足説明をお願いします。

【5 「2. 事業効果」の「チェック項目」および「加点項目」の確認】

(事務局)

まず、「2. 事業効果」のチェック項目は、全ての項目で標準を満たしたと判断いたしました。

続いて、加点項目については、加点を認めなかった項目を中心に補足説明いたします。

まず、チェックシート 2-A-2「魅力ある鑑賞事業の企画・実施・成果」において、加点提案を受けておりますが、複数ある取り組みのうち、ワークショップについては、先ほどの「1 管理項目」と同様に、2-B-1で評価すべきものと判断し、ここでは評価しませんでした。

続いて、チェックシート 2-A-4「区の施策を考慮した事業の企画・実施・成果」において、「えんチャレ」事業の登録募集をかける度に、問合せはいくつかあり、審査会への新規申込者も来てはいますが、他に②成果を判断する材料が乏しいこともあり、区では加点しませんでした。

続いて、同じくチェックシート 2-A-5「区共催事業の企画・実施・成果」におい

て、加点提案がありましたが、①②とも、仕様書で示した業務と内容がほぼ同じであるため、区では加点しませんでした。

続いて、チェックシート 2-B-1「区民への文化芸術活動の参加機会の提供及び活動支援」において、仕様書ではワークショップの実施等を定めておりますが、前回の評価委員会で評価していただいた令和4年度運営分では、コロナ禍の影響で実施しませんでした。

しかし、それまでは、コロナ禍を理由に事業等を実施しなかった場合でも減点評価をしないことを、区の全庁的な方針としておりましたが、前回評価委員会が開催された令和5年度の途中で、方針が変更されたため、後から減点対象となったという経緯があります。そのため、チェックシート最下段にある「前年度減点事項への対応」として、減点へのその後の対応について、記載があります。

対応としては、令和5年度当初はワークショップを実施する予定がなかったのですが、令和4年度運営分について減点となったため、指定管理者により改善計画が提出されました。

これにより、令和5年度中にワークショップを実施することとなりました。

続いて、チェックシート 2-C-1「利用状況が基準を達成している」において、加点提案がありましたが、通常業務の範囲内と判断し、区では加点しませんでした。

なお、客足はかなり戻ってきています。

最後に、同じくチェックシート 2-D「利用者アンケート結果」について、これは今回の話ではないのですが、来年度の評価委員会の評価対象となる（今年度）令和6年度運営分から、より回答しやすいものにするため、質問内容や体裁を一部変更して実施していることを報告いたします。

以上です。

（熊倉委員長）

皆様からご質問等なければ、佐々木館長をお呼びしますが、いかがでしょうか。

（質問なしの声）

ご質問がないようなので、事務局は佐々木

館長をお呼びください。

（佐々木館長、入室）

【6 指定管理者ヒアリング・質疑応答】

（佐々木館長）

失礼いたします。

まず、去年の春から副館長として来ている荒井を紹介いたします。

（荒井副館長）

荒井です。よろしくお願いいたします。

（佐々木館長）

今回の評価委員会では令和5年度の評価になると思いますが、うちで第三期までやっていて、第三期の5年間の最終年度に当たりますので、5年間のざっとした評価の話も少しさせていただいて、全体の総括のサマリーをした上で、5年度のお話をさせていただきたいと思っております。今お配りした資料を作っております。区の方でお作りになった資料があるかとも思いますけれども、見ていただければと思います。

まず最初に第三期、令和1年度から令和5年度の総括サマリーが入っていきまして、それに伴って令和4年度色々指摘いただいたところの対応をした5年度のもののご説明が入っています。

その後に令和5年度の業務評価ということで報告サマリーが入っています。その後ろに事業関連の評価ということで令和5年度にありました自主・共催、その公演チラシ等添付した資料が入っております。

合わせてこれは区の方にお出ししている資料ではないのですが、前年度にやった事業を材料にして次の年度の事業を色々検討しているので、そのための資料が入っています。

最後に自主・共催以外、「協創事業」と言っています、区との共催でやっている事業だとか、うちがワークショップ等々でやっている事業をまとめた資料が入っています。だいたいこの流れに沿って、ご説明させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。まずこの3枚つづりの資料を見ていただければと思います。

令和1年度から令和5年度というのはうちにとっては第三期になります。上に1期と2期の考え方が入っていますが、我々がやらせていただいた平成21年ですね、そのときにやはり

ここの施設をもう少し世の中に知っていただくということが足立区にとってはとても大事だと思ひまして、この5年間は「ブランディング」というキーワードでやってきております。

要するに、足立区の中でシアター1010、北千住を含め、色んなブランディングをやっていこうという第一期でございます。

第二期は、ある程度その5年間やったものをもとにして「ブランドをプライドへ」というタイトルで、この劇場を皆さんに誇りに思ってもらえるような劇場にしたい、併せて、この北千住の町とか足立区というものに色んな意味で誇りを持ってもらいたいなというのもあって、第二期はそんな考え方にしております。

第三期、今期になりますけれども、「そしてプライドを協創・力へ」という繋がっているキーワードになっていますが、この年度、ちょうど令和1年度ぐらいから足立区は「協創」というキーワードを使って足立区を盛り上げようと、それまで「協働」というキーワードだったんですけれども、働くというところからもう少し創造していくと言う世界に向かっていこうという意味かなと汲んだんですけれども、我々も今までやってきていたそのブランド、プライドというのを一つの協創の力にしていければと。こう思ひまして、「足立プライドを、新たな創造文化のチカラへ。」という考え方で第三期をやってきておりました。

ただ、皆さんご存知のとおりコロナがやっばり流行りまして、ちょうどこの期っていうのは、オリンピックもあったので、本当はそこはスプリングボードにしようと思っていたんですけれども、その辺が延期になったり、文化活動止めろという期間もあり、やっばり今後5年間の中のほぼ3年間はいろんな意味で活動が鈍った時期という風に思っています。それも含めてちょっとした総括というか、数字がわかりやすいので目標達成度の数値というものが下に書いてございます。まず、5年間の平均の劇場稼働率というのはプレゼンした段階で73%以上というのを設定していますが、これは何とかクリアできたと思います。

それと、5年間の平均の公演実施回数は50回というのを目標にしたんですけれども、支援事業・還元事業含めて、50回は何とかできたかなと。あと動員数の75%と来場者満足度85%。この辺の数値目標は何とかクリアしたと思っております。

ただ、このときにご提案させていただいた5年の平均の利用者数35万人。これは結構大きなハードルだったんですが、頑張っとうろとということでスタートしたんですが、これは利用制限等々もあり、利用者数が達しなかった。公演の来場者数、これも入場者制限等々があったり公演制限があったりしたので、平均で2万7千人というところには残念ながら到達しておりません。

というようなことで、いくつか公演の中身、施設の利用等々に関して逆風があったんですけども、人数制限のかかった部分以外はなんとか利用目標というのはクリアできたかなと思います。それとあわせて、厳しい時代でしたが、収支も何とか黒字で運営できたなど。その他のあまり大きな問題もなく運営・事業管理ともに活動できたと思っています。

その次のページにこの5年間の行動方針キーワードってというのを入れてございます。最初、5年間でスタートしたときの2年間に関しては、このシアター1010を盛り上げていくというキーワードになっております。

ただ2年目、ここからコロナが始まりました。3年目、4年目、5年目というところに関しては、当初の考え方よりは、もう少し世の中に対してシアター1010がどういう立ち位置でいられるか、どういう考え方でいられるか、ということで行動方針のキーワードも3つ変えております。

令和3年度で「新しい日常にも、劇場は欠かせない」という劇場の立ち位置みたいなことを、このコロナの中で我々がどうしていくかということを含めて、令和3年度のキーワードは作っております。

令和4年度、「舞台芸術は、心のワクチンです。」というワクチン全盛時代だったということを引きかけたのですが、「Get Back! Theatre.」ということで、みんな劇場に戻ろうよというのが令和4年度の行動方針キーワードでございます。

多少コロナが治まってきて、次のステップに向かおうという令和5年度は「舞台の力が世界を元気にする。」「We are the Theatre.」というような行動方針キーワードにしまして、いろんな意味で、舞台の力で世界を元気にしていこう、微力ではあってもその一端を担わせてほしいという意味も含めて、このキーワードで令和5年度はやっております。

この令和5年度は、令和4年度にいくつかご

指摘をいただいたポイントがありまして、そこをちょっと書かせていただきました。それに対して令和5年度にやったことをいくつか書いてございます。

まず施設管理の中長期修繕計画策定が必要だとのこと指摘をいただいております。うちの方で指定管理者の案っていうのは過去に一度提出しているんですけども。この令和5年度でも施設ができて19年目になっておりまして、現在小さな改修には入っているんですけども、この後大きな改修がありますので、それに向けてもう一度区の方と相談していく必要があるというふうに思っております。

それと、リユース、リサイクル、SDGs関連の配慮というご指摘もいただきまして、それに対してのワークショップ、エコキャップの回収、ポスターの掲出等を5年度からやってきております。

それと、少人数しか来られなくても必要とされる企画とかワークショップとか無料公演等の企画を、というご指摘もありまして、ここに書いてあるような「老いと演劇のワークショップ」、「鉄道まつり」、区との共催事業として「はらぺこあおむし」、「えほんのせかい」、「文化のちから体験会」、これらで無料招待公演を今まで以上に幅広くやっております。

それと、文科省の支援事業の採択を受けたので2公演、お子様無料招待というのを実施しております。

それとちょっと切り口は違うんですけども、「珈琲いかがでしょう」という演劇をやりまして、興行主がうちの関連企業だったのでタイアップしまして、北千住の街とのコラボ企画を色々やりました。街の喫茶店を出演者が色々まわっていただいて取材をしたりですね。あとコーヒー店を紹介したりとか。そういうコラボ企画をやりました。実はこれ前年度、今年度と次のステップにも繋がっているんですけども、その取っかかりをやりました。

もう一つ、アンケートがちょっとわかりにくいというお話があったんですが、利用者アンケートに関しては区でお作りいただいていて、令和6年度版から新しいフォーマットに変わっております。

それとシアター1010の公演アンケートというのは必要に応じてリニューアルしてまして、別添に付けています自己評価にも活用させていただいています。

それとコンテンポラリーなもの、ノンバーバルなものにも注目をというお話もありまして、これは区も支援しています「和太鼓グループ彩-sai-」ですね。あと「白A」というノンバーバル・アーティスト、イギリスで結構評判を得ているアーティスト集団ですが、こういうところの支援協力というのをやっております。それとダンス等の協力事業も令和5年度はやってきております。

最後に、文楽を若い世代にも知らせてほしいというお話がございました。これもその段階で区との連携による招待公演を実施することを決めておりまして、無料招待公演を実施しました。実はギャラリーをうちの方で全部取って、文楽展の企画というのをしていたのですが、文楽の協会と国立劇場は一緒ではないんですね。うちは国立劇場で使っていたのですが、文楽協会の色んな了解が取れないと動けないという先方の事情もありまして、文楽展は残念ながら実施しませんでした。

この辺のものを受けながら令和5年度どういうふうにしたか、色々今までの資料も見ていると思うんですけども、それをこの1枚に簡単にまとめてございます。これで状況を見ていただければと思います。今までお話したように令和5年度というのがこの共同事業体の第三期の最終年度であったということで、色々あったんですけども、特にこの後半の3年に関しては、コロナ禍における劇場や舞台芸術の役割というのを世の中に発信して、シアター1010の存在を伝えるということに注力してきたと思っております。この令和5年度に関しては、先ほど紹介した「舞台の力が世界を元気にする」というキーワードで、ある程度コロナが治まりつつあって次のステップに向かう入り口というつもりで、色んなことを実施してまいりました。

まず「管理状況」をご説明します。簡単につまみ食いしますと、通常の管理運営という以外に、省エネ推進、特にLED化に関してはかなり力を入れてやってきております。

これは全体的にLED化をするとすると、区の方の事業でかなり大がかりにやらざるを得ないということもありまして、うちの予算の範囲で部分的にもLED化をして、できる範囲のところをやってきております。大きな劇場やギャラリーは残っていますが、少しずつやってき

たものがある程度功を奏しているかなということで、電気代も結構安くおさまってきております。

それと、SDGsへの取り組みを、先ほどお話をさせていただいたようなことをやってきております。イベントでも子供にゴミの分別イベント等をやらせていただいております。

より来場しやすい仕組みということで、どこも当たり前かもしれませんが、キャッシュレス端末も導入しました。

それと、(ホームページで)施設をご覧いただくような通常のパノラマ写真っていうのはもう前からやっているのですが、合わせて座席指定の映像、この座席から見るとどういう風に見えるかというものも、令和5年度に導入しております。先ほどちょっとお話を、コロナ明けを見据えた運営ということをやってきております。

もう一つ、やはり令和5年度は19年目でしたので、経年劣化に対する対応ということで、未然防止修繕や、安全点検の強化。あとここにちょっと書いてありますが、カラスの危険被害対応。これはネオンサインにカラスが針金ハンガーで巣を作ってしまうことで、巣を作ることそのものは問題ないんですが、それが落ちてくるんです。そうすると下の通路の方に危険があるということで、巣を作り始めたら屋上からぶら下がり針金ハンガーを取る作業をするのですが、結構な費用がかかる。で、いろんな工夫をしてネオンに剣山をつけたりしました。そんなことをやってるんですけれども、ネオンサインは4カ所にあるので、なかなかこっちをやるにあっちにできたり。そんなことを前年度もやらせていただいております。

それと、各諸室のプロテクターやドアストッパー等の安全対策もいくつかやってきております。基本的にやっぱり経年劣化対策、予防保全ということをベースに対応してきました。

研修については今年度も色々やっていますが、特に令和5年度あたりは、舞台の安全対策、高所作業だとかが厳しくなってきました。その対応研修を実施しました。あと建物の環境衛生ですね。これは単に良い空気ということだけではなくて、ごみ処理を含めた環境衛生ということが課題になってきておまして、その研修を実施しておりました。管理関係に関してはこんなところでございます。

それと「事業効果」ですね、これはいくつか

項目に分けておりますけれども、まず公演回数で対前年との比較を入れてございます。自主・共催の公演数令和4年度は30回だったんですが、令和5年度は46回やり、総入場者数でおよそ2万7千名にして対前年の1.6倍になった。入場率は93%で対前年5%アップということで公演回数も多くできたということも含め、やっぱりコロナ明けということも含め、少しずつ入場者数の状態、「半分までね」とか「2割カットね」と、少しずつ進んできております。

それと協創事業・招待関連ですね。協創事業関連については令和4年度は6回で、5年度は7回で1回増えただけなんですけど、これは通常の区との共催以外のものを1つ追加でやっております。招待関連は令和4年度に関しては5回、令和5年度は9回。結構多く招待事業ができました。

それと利用率、利用者数です。劇場の利用率が令和4年度で79%だったんですが、5年度で82%。利用者数で21万9千人が24万3千人。それほど多くはないんですが、多少増えたというところでございます。

それと広報関係でいきますと、広告類でマスとエリアメディアで118回、パブリシティ、これは要するに広告ではなくて取材記事のようなもの、テレビの取材等と一部把握できないPR活動もあったんですが、最低でも40回以上いろんなパブリシティに載った。ある意味、広告以上に大きな力かなと思っています。

その後ろの資料は、もしかしたら区の方からお渡ししている資料と被るかもしれませんが、令和5年度の文化事業の資料として、チラシのコピーも全部入っております。各公演に対しての入場者数だとか入場率とか、満足度の集計は先ほどした話になっております。

それと、支援事業で高校演劇サマーフェスティバル2023というのが、コロナのときは中止だったり、ほとんど関係者以外は入場できなかったのですが、令和5年度からある程度の人数を入れられるようになり、2千人を超えるました。

その下は区と朝日信金さんの100周年記念ということでやった還元事業でございます。これの参考になる資料としてチラシのコピーが付いてございます。

この自主・共催関連の資料で僕は前年度の公演内容をある程度の範囲で分析しまして、次の年度の公演に生かすような形をとっております。ただ、数字データを元にし、アンケート等も材料として入っていますが、どうしても公演というのは1年以上前に仕込むことが多いです。1年半前に申し込むものもあれば、間際のものもあって、普通は区の方との調整会議も、この1月に次の年度のを1回ご報告するのですが、4月の段階でまた新しいものをご報告して、また、途中からでも新しい公演があったら全部入れ替えていくためにこういう資料を使っています。極力集客力を上げたり、ターゲットにどれだけフィットしたかっていうところを狙っていくための参考資料です。

最後の資料は、先ほどの自主・共催というものとも違う、ある意味では区との連携事業です。「協創事業」と言っている区との共催だったり、丸井さんと組んでやったりですね。

あと、うち単独でやってるワークショップ。例えば資料の後ろから2ページに「老いと演劇のワークショップ」というのが入っています。これは後から追加したのですが、実際に2年ぐらい前に一度やっております。菅原さんという講師の方で、今、鳥取にいらっしゃる方です。チラシに出ている役者さんは認知症の方で、もう90歳を越えていて、この方には残念ながらこちらに出ていただけなかったんですが、菅原さんには来ていただいて、こちらでワークショップやっていただきました。数年前には彩の国さいたま芸術劇場でこの方も来ていただいた、街の「インスタレーション」(事務局注：20世紀後半に生まれた現代美術における表現手法の一つ。場所や空間全体を作品として、見る人に体験させる。)みたいなワークショップをやっております。それに近いことをできればやりたいと思っていたのですが、如何せん、主役の役者さん本人に来ていただくのが難しそうですね、別のものを企画しています。うちが今休館に入っているので、ギャラクシティをお借りして、今年度、またワークショップの形でやる予定です。

そんなことも含めて、令和5年度、色々と試行錯誤の時期でしたが、何とかこなして、今、第四期目に入っているところで、ある意味では大きく花開かせたいなと思っているところです。長くなりましたが以上です。ありがとうございます。

ございました。

(熊倉委員長)

ありがとうございました。委員の皆様から質問等いかがでしょうか。

(垣内委員)

ご丁寧にご説明ありがとうございました。毎回同じようなことを質問して恐縮なんですけど、まずコロナで非常に痛んだ状況の中から、ここまで回復されたということ、ご努力されたんだなということ実感しております。ただ、一方で、アンケート調査等を拝見しますと、このうち主催公演とかにいらっしゃる方、それをはるかに上回る利用者等、この施設をお使いになる方は、皆さん結構区外の方が多くて、ある意味、シアターがブランド力を増して、区の外からたくさんの人を誘客できているというふうにポジティブに評価できると思うのですが、一方で2億7千万円ぐらいの指定管理料(※)ですよね。なので、色々な形で区民の方への還元、えんチャレであったり、ワークショップであったり、街とのコラボであったり、すごく努力されてるのはわかるんですけども、主催公演という非常に劇場としては中心となる活動にどういう風に区民の方に関心を持っていただく、あるいは何らかのしかけ、若い人たちに「アンダー26は無料」とかインセンティブを付けるなりして、呼んでくるというような可能性はいかがでしょうか。なかなか難しいところでもあるかと思うのですが。色々な無料のイベントとか、ワークショップとかにはたくさんのお客さんがいらっしゃるし、出し物はチラシを拝見する限り、いわゆるハイ・アーツっていうか、高尚な、何か勉強しなきゃいけないようなものではない、非常にうまく設定されている公演のラインナップだと思うので、ここにもう少し区民の方を呼び寄せるための仕掛けとか工夫とか、または障害となっていることとか、情報共有していただけるとありがたいと思います。

※事務局注：ただし、指定管理料には事業にかかる経費や広告宣伝費、正規従業員の人件費は含まれていない。

(佐々木館長)

一つはですね、ここまでの第一期のときにブランディングという話をさせていただいたように、ここの役目というのが、最初に区民向けのものはギャラクシティが中心であって、ここはある意味の広告塔になってほしいというスタートだったんですね。つまり、足立区の文化

というのを発信する場所であって、対外的なものに非常に力を入れたいと。

ここでも区のイベントっていうのは、区民のためのイベント、区民が自分達のためのイベントはやるんですけども、区民を主にするイベントのウェイトというのはもともとあまり多くなかったというか、こちらに求められていたものとは違っていたので、足立区の文化発信基地っていうか、シアター1010を世の中に発信しながら、北千住に、足立区にあるんだという、そんな役目でスタートしているので、どうしても今そのウェイトが高いです。当然区民の方々に来ていただけるような方策ということかというと、前年度、前々年度に比べると、例えばこの令和5年度にしても、区民向けのもの、区民の無料のご招待とかは、どんどん増えてきています。「はらぺこあおむし」とか、「えほんの世界」っていうのは、区民だけのためのイベントなんですね。そういうものが増えてきてはいます。

ただ、生業としてそういうことがあって、区民の方はお安く見れる状態にはなっている、5%、10%の割引にはなっているんですけども、それ以上になると、どうしてもやっぱりちょっと違和感が出るので、今のところまだその範囲でやっている。

ただ、区民向けの事業というのを増やすという意味では、別のかたちで増やしてきているので、出来るだけそういうことを増やしていきたいと思います。

余談ですが、実は10年前は区民向けのイベントがもっと多かったです。今ここで協創事業といっている事業の範囲がものすごく広がったんですね。なので、多分、今の時期よりも3〜4割区民の方は来ていただきました。そちらの事業が多かったの。それがちょっと今しぼんでいるので、今のところここまですが限界なんですけど、その後いろいろ区の方ともご相談させていただいて、ある程度対外的なアピールは少しずつ出来てきているので、もう少し今度は対内的なものというか、ずいぶん「千住の劇場いいね」って言うっていただけるようになってきているので、それをもう少し力を入れてやればなと思っております。

(垣内委員)

長くなってすみません。ちょっと条例を拝見すると、「自主的な文化芸術活動の場を提供する」とあるので、舞台公演はブランド力のためかもしれませんが、この施設を利用する24万人ですか、令和5年度も20万人を超え

る方が使ってらっしゃるんですけど、その中で区民の方はそんなに多くないですよね。それはアンケート調査がもし正しいとすると、7割以上が区外の方ですよね。公演はお金もかなりかかりますし、いろんな形で障害があるかもしれませんが、この施設を利用するという意味であれば、近くの方、近隣の住民の方の方が使うのかなとちょっと思うんです。地域文化の形成に寄与するといった部分もあるので。

(佐々木館長)

ここは劇場等の大きな施設が1年半前の抽選なんです。区内の方、区外の方関係なく抽選する。区内の方が使いやすいというのは6カ月前からの稽古場や練習室であったり講義室等の施設になるんですね。そうすると6カ月前だと割と区内の方が使いやすいんですけど、1年半前から、なかなか企画をしてご利用になれる方はそんなに多くないというのがあるかなって気がします。

先ほどの生業ということかというと、僕らはスタートしたときは、抽選は2年前だったんです。2年前に抽選があったので。よほどのことじゃないと借りられない。それを1年半前にしたのですけども、そんなこともあっていろんな区の方のご利用割合はその位なのかもしれません。区外の方がお使いになっている割合が多いですね。どうしても使う範囲の500人とか700人が入る施設に関しては1年半前に抽選になるっていうのが、なかなか手を出しにくいのかなっていう気もしております。

(熊倉委員長)

ありがとうございます。他にいかがですか。

(高柳委員)

1月17日で阪神大震災から30年ですが、大地震の備えとかはどうなっているのでしょうか。

(佐々木館長)

地震に関しては区の方で連絡網があります。うちの場合は当然夜はいませんが、このビルは防災センターさんが24時間動いています。

なので、何かあればその防災センターを中心にうちのメンバーと区の方も連絡が取れて、すぐ対応できるようになっていて、劇場で何か起こっている、どこかで何か起こっているのを防災センターで全部チェックしていただいて、常に動けるようになっています。

わかりやすいので言うと、東日本大震災の時

には、ここに皆いたので、皆泊まり込んでいろんな対応をしました。ここはどうしても下が丸井さんですので、外の方を入れられないんですね。駅前には滞留するのですが、その方々を中に入れることはできないんですよ。なので、この中にいる方を守ることが大前提になっていて、避難する方を入れるという状況ではなく、ある意味、ここを守るのが僕らの役目かなと。

(高柳委員)

あと一点、最近カスタマーハラスメントが話題になっていますが、対策は何かしてらっしゃいますか。

(佐々木館長)

カスタマーハラスメントに関しては、当然、そういう研修会もやっておりまして。実際に僕らは共同事業体で、会社が三つ入っていて、各々がカスハラ対策をしつつ、横に連携して、かなり協力できています。単に上下関係だけじゃなくてやっているの、いい面かなと思っています。

(熊倉委員長)

今日のプレゼンテーションは自主・共催公演、協創、招待企画に関してのアンケート評価等ですよ。つまり、私が知りたいのは、年間の、いわゆる貸し館事業はどのぐらいあったのか。

(佐々木館長)

貸し館事業は、劇場の利用率だけ取り上げてみると、令和4年度だと79%、令和5年度で82%の稼働率。利用者数全体は令和4年度21万9480人が令和5年度に24万3127人です。

(熊倉委員長)

何公演ぐらい貸し館で借りられたのかなというのと、貸し館と主催共催の比率を知りたかったです。

(佐々木館長)

それはちょっと出していません。というのは、貸し館といっても色んな貸し館がありまして、オープンにしているものとダメなものがありまして、借りてらっしゃる方はわかるんですけど、「これは公表しないでくれ」ということで、要するに公演じゃない貸し方で使われている方も結構いらっしゃる。なので単純に公演数との比較はなかなかできない。色んなお集

まりで使われたりっていう方で。それは使用の数には入るんですけど、こういう方が使った、こんなことをやっていた等、出せないこともいくつかあるので。

(熊倉委員長)

いや全部のリストが欲しい訳じゃないんですけど、単に貸し切る借り方ももちろんできるわけですよ、それは「その他」に入れて。入社式とかで、それは出さないで欲しいっていうのは当然として、それは「その他」でいいんですが、チラシを見て普通にチケットを買った人の他に、特に興行主さん等、他にどんな人たちが貸し館で使ってるのかという資料がない。前にも言ったような気がするのですが、アンケート等も、つまり単に貸し館で借りられた方と客席に普通にお客さんとして入ってきた人と分けてほしい。むしろそれをブランディングとして、何でシアター1010を借りてみようと思いましたかっていうところに、駅から便利で集客力があるかとか言ってくれたら嬉しいわけですね。綺麗な劇場でお客様に好評であるとか、というようなことを知れた方がブランディングの最終段階としていいんじゃないかって。今ちょっとここが来年から対応いただけるって、どういうふうに対応いただけるか聞いてないんですが、ちょっとバックヤードを使われた方・ステージを使われた方と客席を使われた方のアンケートが一緒になっちゃっていて、例えばステージを使った人はその市民活動の発表の場が欲しいのかもしれない、ちょっとそのところがごっちゃになっているところがわかりにくいし、ちょっと残念かなと。

多分シアター1010を自主公演に使うにはちょっと高いんじゃないかなと思うんですが、逆にプロフェッショナルの方々、あるいはそれでもメリットがあるので使いたいという方々等、どんな人たちが使ってくれているのかっていうことがざっくり分かるといい。むしろ一般のお客様からだと、この館のイメージでは、どれが主催どれか貸し館かわからないので。そういう気がいたしました。

あと、色々我々の注文に真摯に応じていただいて、ありがとうございます。文化庁の補助は初めてですか。

(佐々木館長)

子供支援は初めてです。別の文化庁のものはずっとやっているんですけど。今回は子供支援が2つほどありまして、ちょっとそれがきっかけになって、今年度もやってます。

(熊倉委員長)

これは、チラシを見ると別に在住とかは関係ないのですか。

(佐々木館長)

これに関しては区民じゃなくて、どなたでも大丈夫とご案内していました。

(熊倉委員長)

でも逆に若い人だけ来たりとか、あるいは保護者と一緒に来て、こんなに近くに良い劇場があるってことが知られる機会になればいいと思いますし、認知症の方のワークショップですとかもすごく良かったと思いました。

あと先ほど「対応しましたよ」ということで、ノンバーバルのイギリスの「白A」。

(佐々木館長)

「白A」はエジンバラなんかでやられて、いろんな賞を取られています。チラシは今には入っていませんが、その方々を応援して、以前の年度からいくつかやっていますね、イベントのときに出ています。今年度ですが、うちが企画して、うちが今休館中なのでギャラクシティを使ったイベントでやっていただく。うちでやらなくともそういう風に団体さんの支援をしています。「和太鼓グループ彩-sai-」に関しても、他でやる公演に対してうちでご案内したり、劇場を貸したり、そういうようなことをやっています。

(熊倉委員長)

よくわかりました。委員の皆さん、他はよろしいですか。

(立石委員)

立石と申します。ご説明ありがとうございます。私は、同じ都内の公立劇場の職員でもありまして、令和5年度の公演のラインナップを拝見させていただいて、こういったことをやってらっしゃったんだなあとというところ。駅前でキャパ700名ということ踏まえたら、ちょうどいいというか、絶妙な公演を呼んできているという感じがしました。チェック項目ですとか加点項目にも入ってきていますけれども、こういう各公演で障がい者の方ですとか、車椅子の方も当然そうなのかもしれないですけど、そういった方々で、どのぐらいのご利用者さんがいらっしゃったのかということと、こういった方々がよりホール・劇場をご利用しやすいよ

うに感じてもらえたりとか、実際に使いやすくしているような取り組みがこの報告以外であれば、教えていただきたいなと思います。

(佐々木館長)

はい。まずどのぐらいお使いになっていただいたかというカウントはしていません。車いすの方にはご希望に合わせて場所も作れます。大きなイベントや無料公演にはそういう方もご招待しますので、椅子を1列外して、車椅子が並べて入れるようにしたりという風にはやっていますが、そういう方が全体の何%かというカウントはしていません。

それと、当然これは車椅子だけじゃなくて、目の見えない方、耳が聞こえない方とか対応は色々あると思うんですが、そこもまだテストぐらいの段階です。テストというのは、要するに事業体の中では対応する企業が入っていて、他ではやっているんです。ただ、ここで今はまだやれていないのは、いろんな状況とか環境の問題もあります。対応はできるんです、実は。

それともう一つハード面で言いますと、どうしてもこういう上層階にある劇場なので、バリアフリーの限界があるかなという風に思います。車椅子で入ってきて、上の方でもエレベーターで上がってみたいというのはできるのですが、じゃあ全然段差がないように全部できているかということ、なかなかそうでもないですし、そこは今後の対応かなと。

(立石委員)

あと、一点気付いたところですが、バリアフリーの対応もそうだと思うんですけど、外国人への方への対応、足立区在住の外国人の方がどのぐらいいらっしゃるかっていうところまで把握はできてないんですけれども、例えばピクトグラムや表示とか、チラシ等でやさしい日本語・解りやすい日本語か、他言語対応なのかっていったところ等も対応していただけないかという感想です。

(佐々木館長)

各施設の表示は4カ国語で全部対応するようにしています。パンフレットもそういう形をとってですね、あと受付は皆が外国語ができるわけではないので、「ポケットク」で対応するようにしています。

特にここは、そこに区民事務所がありまして、外国の方いっぱいいらっしゃるんです。こちらにも案内で来るので、とりあえずそれで対応するようにしております。

(立石委員)

ありがとうございます。

(中島委員)

質問ではないんですけども、アンケートでトイレがいつも綺麗ですという声がいくつかあり、素晴らしいと思いました。先日視察をさせていただいた時も、職員の方が誇りを持って仕事をされているような感じを受けましたので、それだけの劇場なんだなと思いました。

(佐々木館長)

ありがとうございます。

(熊倉委員長)

はい。他に。質問よろしいですか。では大体よろしいですか。大丈夫ですか。ありがとうございます。

(佐々木館長)

先ほどのご質問の中で、ちゃんとお答えできていない、ご利用いただいている方の公演内容とか、データとしては多分取れないんですけど、こんな方がこんな公演をやってこんなご意見があるという材料は取れると思います。データで取れないというのはですね、公演サイド、貸し館で使ってる方がうちに全部の情報は出してくれないんですね。なので、出していただければ今後は取っていくようにしていきますので。それによってもう少し幅広く資料を出せるかなと。

(熊倉委員長)

単にチラシ、当然ここにも置かれると思うのですが、、、。

(佐々木館長)

チラシも最近置かないんですよ。うちの入り口でチケットも売らせてもらえないです。だから公演がどこで何をやったかわからないままに来るものもあるんですね。チケットを預かれるのは非常に少ないです。一応(手数料)10%とか受け取ることになっているので、そのせいではないとは思いますが、ちょっとこれは僕が勝手に思っている話ですが、お客様へのチケットの回り方の仕組みがどんどん変わってきている。窓口だったり館のネットで買ってる方よりはもっと違うところで。特に2.5次元系はもうほとんど会員の方でバーっと無くなっちゃってるんですよ。友の会もですね。

実は友の会で増えるのは、自分の「推し」の役者さんが出る時だけ。「推し」の役者さんが出ると、あっという間に何百人ってボーンって増えるんですよ。その方は1年間、会員資格を使わない。そして1年経つと消えちゃうんですよ。だからぐるぐる回ってるんですね。

多分これはどこの施設でも、もう同じだと思います。多分色んな所で課題だと思っていて。ただあんまり皆さん、アンタッチャブルな世界に手を付けられないでいて、友の会って大事だよねっていうことで今まで来ているんですけども、ちょっと色んな構造が変わってきたことで、少し変えないと難しいなという気がしています。

(熊倉委員長)

なんかせっかく地元だから色々なものと言いつつ、いやもう場所だけ借りて自前の会員システムでとか、後援会とかはね、当然そういうのは多かろうとは思いますが。今は舞台公演はそうでしょうね、「ピーティックス」(事務局注:民間企業が提供しているオンラインサービスの1つ。一般の人でもオンラインでチケット販売等が行える。)でみんなやっちゃうとか。700人のキャパでQRコードを見せるっていう意識はなかろうと思ったんですけども。もしかしたらあるのかもしれない。でも借りる時の申込書しかない。

(佐々木館長)

そうですね。こんな公演やりますっていうのはいただけるんですけど。仮でもらえるのがですね、何人入りましたって人数はもらえます。というのは、トータル人数で僕らは計算するので、何人お客さんが来ましてかっていうのは教えてもらえるんですけど、例えばどういう方が来たっていうアンケートの一部をもらうとか、あと先ほどのように、「チラシを置かなくていいんですか」とか、「チケットないんですよ」みたいなこととか。どちらかと言うとそちらの方が多いので、そこは今度うちの方の課題でもあるかと、今後ちょっとやり方を変えないかなと思っています。

(熊倉委員長)

チラシを見るのが一番早いなって思ったんですけども。確かに700埋めるのだからチラシは作らないかなと思ったんですが、案内チラシを作らないケースが増えてますね。そうしたら人数報告のときにその事業名だけ。

(佐々木館長)

そうですね。できるだけ僕らは、うちの方には来ていないんですけど、ネット情報を探って「こんな公演なんだね」というのはやってるんですけど、なかなかデータ化はできないですが、うちとしては探ってはいるんですね。でも、それはうちの課題でもあるので、今後の対策に役立てていきたいと思っています。

(熊倉委員長)

はい。ありがとうございました。

(佐々木館長、副館長退室。

委員会内で審議、意見交換)

(採点記入表の受理。集計作業。

各委員に集計結果を配付)

(熊倉委員長)

集計結果が出ました。どうぞ。結果の発表を。

【7 仮採点】

(事務局)

それでは、令和5年度運営分の結果発表をさせていただきます。合計点が123.2点ということで、表に当てはめると120点以上132点以下ということで、A-でございます。

【8 最終審議・決定】

はい、A-ということで、無事に何とかいけるということで、また最終結果が出る時に皆様からいただいた所見シートもですし、また、さらにつけ加えてこういうことを思い出した、ということがあれば。

では事務局にお戻しするので大丈夫でしょうか。

【9 閉会】

(事務局)

はい。ありがとうございます。本日は委員の皆様ありがとうございました。

本日の審議内容、採点をまとめまして、指定管理者への結果報告、評価結果の公開等進めてまいります。また、それらをもとに、今後シアター1010の運営に生かしてまいりたいと思います。

それでは本日は長時間にわたりましてご審議いただき、誠にありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。